

平成 29 年度 人事交流（大学→病院）

◇小国町立病院

【平成 29 年 9 月 7 日～13 日（土日を除く 5 日間）】

・研修者：本学看護学科助教 渡邊礼子



【研修内容】

9月7日	AM	・癒しの園施設案内、オリエンテーション
	PM	・合同カンファレンス（病棟） ・ショッピングセンターにて街かど医療相談室参加
9月8日	AM	・産婦人科外来業務（問診・診察介助・患者誘導）
	PM	・健康福祉課 1 歳 6 ヶ月検診の問診・保健指導見学
9月11日	AM	・訪問看護ステーション（訪問看護同行）
	PM	・病棟にて、包括ケア病棟や退院支援についての研修
9月12日	AM	・小国保育園にて、仲よし広場参加
	PM	・小児科外来業務（患者誘導等）
9月13日	AM	・内科外来業務（問診・血圧測定・記録等）
	PM	・介護老人保健施設温身の郷にて、施設の役割や機能について研修

【研修成果・所感】

- ・小国町は人口減少・高齢化が進んでおり、病院には僻地医療の役割・他病院との連携などが求められていた。また、小国町立病院は敷地内に、訪問看護ステーション・介護老人保健施設・健康管理センターが併設されており、勤務する看護師は外来と病棟、訪問看護・老健施設をローテーションしているため、受診している患者としてではなく、地域で暮らす一人の町民として多方面から捉えることができていた。
- ・地域の中で求められている病院の在り方と、それが可能な部分とそうでない部分をみることができた。
- ・勤務している看護師が少人数、求められるものも多彩、協同する職種も多い、看護師としての判断を求められるという中で、「責任が大きいがいがある」、「自分からやりがいを見つけ出す努力が必要」という言葉が印象的だった。
- ・患者を「患者」としてだけでなく、「地域で生活している人」として捉えている姿は、自分のこれまでの看護が一方的になっていなかったらどうかと考えさせられた。
- ・地域で母子の健康を守るための取り組みや地域で暮らす住民の健康増進、健康状態の変化の早期発見などの取り組みを学ぶことができた。

